



全国ごてんまりコンクールで入賞

高橋 真由美さん 46歳
日吉町二丁目



手まりの魅力を伝えたい

秋田県由利本荘市で開催された全国ごてんまりコンクールで由利本荘市観光協会会長賞を受賞した。白い繭玉がかごの中に入っている様子を表現した作品名は「繭と生糸は日本一」。色鮮やかな作品が多い中で、高橋さんの作品は落ち着いた色合いに仕上がっている。

「東日本大震災の影響で今回は開催しないだろうと思っていました。主催者から開催の案内があり、急いで仕上げました。東北を盛り上げるために、少しでも役に立ちたいという気持ちを込めて作りました」

小さい頃から手芸など、細かい手作業が好きだった。ホームヘルパーの資格を取得するためにカルチャーセンターに通っていた8年前、施設内に飾られていた手まりを見て、その繊細で美しい模様で魅

了されたことが、制作を始めたきっかけだ。

「自分もこんなふうになんか引き付けることができたらいいなと思いました」

2年前に「日本てまりの会」師範の資格を取得。勤務先の老人福祉施設では、仕事の合間に施設利用者に教えることも。

「私が教えた人が上手に作ったものを見るとうれしいですね」

今までの制作数は約200個。難しい技法に積極的に取り組むなど、向上心が欠かさない。

「まだまだ勉強中ですが、将来は個展を開き、多くの人に手まりの魅力を伝えていきたいです」

高橋さんの作品が表現する繊細で美しい模様が、多くの人を魅了するときに来てもらいたい。

未来への贈りもの 本市収蔵作品

小室翠雲

「赤城山水図」「妙義山水図」

明治43年

絹本彩色・軸装(226.0cm×101.0cm、7cm×100.0cm)

柔らかな色彩で麓の田園風景とともに描いた赤城山と、珍しい形の石門を中心に険しい岩場を描いた妙義山。桜が咲く春と紅葉の秋、遠景と近景など、季節や構図、描写を対比させた双幅です。



(右)赤城山水図

(左)妙義山水図

赤城山水図には「庚戌首秋」、妙義山水図には「寫於 臨江閣」と、小室翠雲の署名があり、臨江閣別館が建てられた明治43年に、臨江閣で描かれたことが分かります。明治44年に発行された一府十四県連合共進会の記念写真帖には、別館2階大広間の床の間に掛けられた本作品が掲載されています。

小室翠雲(本名 貞次郎、明治7年(昭和20年)は現在の館林市本町の呉服商の家に生まれました。栃木県足利市に住む田崎草雲に師事し、中国の南宋画を由来とする南画の世界へ入っていきます。

本作品が描かれた明治40年代は文部省美術展覧会を中心に作品を発表し、山水画において優れた才能を発揮しました。その後、日本南画院に参加。南画の復興と普及や後進の指導に当たり、その門人は300人にも及びました。

近代南画を代表する画家として認められた翠雲は、帝室技芸員に任命されるとともに、群馬美術協会の初代会長を務めるなど、本県ゆかりの作家です。

問い合わせは 文化国際課 ☎090-1000-1000

クローズアップ



新春の書き初め教室

1月4日、前橋プラザ元気21で中公書初め塾を開催しました。中央公民館で活動している自主学习グループ・和翠会のメンバーが講師となり、子どもたちを優しく指導。会場は和やかな雰囲気にもまれ、集まった児童約70人は、書道の楽しさに触れました。



懐かしの名車を一目見たい

上毛電気鉄道大胡電車庫では1月3日、上毛電鉄新春イベントを開催。懐かしの名車・デハ101の臨時運行が行われたほか、電車との綱引き、トークショーなども行われました。会場には大勢の人が訪れ、正月の楽しいひとときを過ごしました。



堂々とした演技で魅了

12月18日、市民芸術文化祭の一環として、演劇「八人の女」を市民文化会館で開催。劇団「ペルソナ館」と児童文化センター演劇クラブのメンバーが、日頃の練習の成果を発揮しました。出演者の素晴らしい演技に、会場からは惜しみない拍手が送られました。



大きな声援で背中を後押し

1月1日、全日本実業団対抗駅伝競走大会が、県庁前を発着点とする7区間、100kmのコースで行われました。駅伝日本一の座を目指して、地域の予選を勝ち抜いた37チームが集結。多くの人が沿道に詰め掛け、駆け抜ける選手に大きな声援を送っていました。